



# 指導班だより

H30.12.3 No.15

宮城県大河原教育事務所 指導班

## ～充実した幼児教育～

去る10月17日(水)、川崎町立かわさきこども園を会場に、宮城県国公立幼稚園・こども園協議会大河原支部研究大会が開催され、当事務所員も研修する機会をいただきました。当日は、かわさきこども園の公開保育と併せて、角田市立西根幼稚園の研究発表が行われ、管内の幼児教育に携わる多くの方々とたくさんの研究成果を共有することができました。

公開保育当日は、あいにくの天候で室内での活動となりましたが、体を動かす遊びを通して、あきらめないでがんばる子どもの育成を目指して、質の高い保育が行われていました。



カー杯ジャンプするよう、タンプリンで目標を設定します。うさぎの耳を着けて気分も高めます。

## ～幼 小 連 携～

幼稚園教育においては、今年度から新幼稚園教育要領、及び新幼保連携型認定こども園教育・保育要領の全面実施となっています。今回の幼稚園教育における教育要領の改訂は、小学校との接続を重視したものです。ぜひこの機会に、小学校の先生方に、幼稚園教育要領の内容をご確認いただき、各学校での幼児の受け入れ態勢の整備と併せて接続期カリキュラムの修正に役立ててほしいと思います。(同様に小中学校の先生方にも、学習指導要領改訂のこの時期に、相互の指導要領に目を通していただくことで、小中連携が促進するものと思います。)

今回の改訂では、幼児期にふさわしい生活で培った資質・能力を、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を通して振り返り、小学校の生活や学びにつなげていくことが求められています。幼稚園等にとっては、具体の支援によってどのような幼児に育ったのか、受け入れる小学校にとっては、その姿を学校教育の中でどのように育てていくかという視点で共有していただきたいと思います。こうしたつながりが「小1プロブレム」の解消の一歩になっていくものと思います。



異年齢交流によって、年長児には、年少児の目線になって一緒にフォークダンスする優しい思いが育っています。



活動の振り返りを通して、遊びの工夫を凝らしたり、次の活動への期待を高めたりしながら、自発的な遊びへとつないでいます。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- (1) 健康な心と体
- (2) 自立心
- (3) 協同性
- (4) 道徳性・規範意識の芽生え
- (5) 社会生活との関わり
- (6) 思考力の芽生え
- (7) 自然との関わり・生命尊重
- (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- (9) 言葉による伝え合い
- (10) 豊かな感性と表現

※詳しくは幼稚園教育要領P4～5を参照

### 【留意点】

これらの姿は、到達すべき目標ではなく、自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特성에 応じて育っていくものであり、全ての幼児に同じように見られるものではないということです。

幼児期の教育と小学校教育を接続するに当たっては、一方が他方に合わせるのではなく、それぞれの発達の段階を踏まえた教育活動を充実させることが大切になります。

### ＜スタートカリキュラムをデザインする基本的な考え方＞

- 一人一人の児童の成長の姿からデザインしましょう。
- 児童の発達の特性を踏まえて、時間割や学習活動を工夫しましょう。
- 生活科を中心に合科的・関連的な指導の充実を図りましょう。
- 安心して自ら学びを広げていけるような学習環境を整えましょう。

